

令和元年度
事業報告書



学校法人 行吉学園

目次

建学の精神・教育綱領	1
はじめに	2
I 法人の概要	3
1 法人の沿革	3
2 学校・学部・学科等の定員と現員（令和元年5月1日現在）	4
3 学生・園児数の推移（過去5年間）	5
4 教職員数の推移（過去5年間）	5
5 役員の概要（令和元年7月1日現在）	6
6 評議員の概要（令和元年7月1日現在）	6
7 理事会・評議員会の開催状況（令和元年度）	7
8 施設等の状況（令和2年3月31日現在）	9
9 法人組織構成図（平成31年4月1日現在）	10
II 事業の概要	11
1 主な教育・研究の概要	11
(1) 卒業の認定に関する方針	11
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針	11
(3) 入学者の受入れに関する方針	11
2 令和元年度事業計画の進捗状況	11
(1) 教育に関する目標を達成するための計画	11
(2) 研究に関する目標を達成するための計画	13
(3) 社会貢献に関する目標を達成するための計画	14
(4) 学生の進路に関する目標を達成するための計画	14
(5) 学生支援に関する目標を達成するための計画	15
(6) 施設・設備に関する目標を達成するための計画	15
(7) 入試広報に関する目標を達成するための計画	16
(8) 幼稚園に関する目標を達成するための計画	16
(9) 組織に関する目標を達成するための計画	16
(10) 財政に関する目標を達成するための計画	17
別記（1-2）教育内容に関する目標（各学科・研究科等）を達成するための計画	17
①神戸女子大学	17
②神戸女子大学大学院	19
③神戸女子短期大学	19
3 特記事項	21
(1) 卒業者・修了者数の状況	21
(2) 国家試験の受験・合格状況	22
(3) 学修支援センター等	22
(4) 国際交流事業	23
(5) 図書館	24
(6) 研究	25
(7) 古典芸能研究センター	27
(8) 学生	27
(9) 保健室	29
(10) 教職支援	30
(11) 就職支援	31
(12) 入試広報	33
(13) 収益的事業	35
(14) 幼稚園	35

目次

Ⅲ 財務の概要	37
1 決算の概要	37
(1) 貸借対照表関係	37
(2) 資金収支計算書関係	37
(3) 事業活動収支計算書関係	39
2 その他	40
(1) 有価証券の状況	40
(2) 借入金の状況	40
(3) 学校債の状況	40
(4) 寄付金の状況	40
(5) 補助金の状況	41
(6) 収益事業の状況	41
(7) 関連当事者との取引の状況	41
(8) 学校法人間財務取引	41
3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	41

—学校法人行吉学園 建学の精神・教育綱領—

建学の精神

本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成に、力をつくすにある。

教育綱領

- 学術の研究を通して、人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ、識見高く、心情豊かな女性を育てる。
- 個性の伸長をはかり、社会に貢献しうる人材を育てる。
- 勤労を愛し、義務と責任を重んじ、自律的に行動する態度を養う。
- 宗教的情操を培い、謙虚にして愛情深く、よく苦難に耐え、常に信念に生きる女性を育てる。
- 明朗にして礼節あり、健康にして柔軟な心身の持ち主となり、よく世代を導きうる女性を育てる。

はじめに

令和元年度は中期目標・中期計画がスタートする年度でありましたので、中期計画に基づく令和元年度事業計画の着実な実施に意を用いてまいりました。

教育では、教育の質の向上を目指した学部、学科、研究科等のカリキュラムの見直し、看護学研究科の始動、教育学科及び健康スポーツ栄養学科の教職課程の認定、国際教養学科の定員増の認可申請等に取り組みました。

研究では、科学研究費の確保、企業との共同研究等に取り組むとともに、古典芸能研究センターと図書館が所蔵する能狂言に関する絵画資料を国立能楽堂の特別展「能狂言絵コレクション」で初公開しました。

学生支援では、新たに始まる修学支援新制度の準備を行うとともに、障がい学生支援に関する規程やガイドラインを整備し、全学的な支援体制を構築しました。

大学運営では、短期大学部長を含む部局長等会議を運営するとともに、教学組織を統合し、大学と短大の一体運営を推進しました。

高倉台幼稚園では、保育環境や経営の改善に向け、幼保連携型認定こども園へ移行する方針を決定しました。

学校法人の運営では、私立学校法の改正に伴い、寄附行為や監事監査規程の大幅な改正、情報公開・開示規程や役員報酬規程等の制定を行い管理運営面の充実を図るとともに、現在の運用環境に即した運用が可能となるよう資産運用規程を改正しました。また、自律的なガバナンス体制を確保するため、法人運営の規範となるガバナンス・コードを制定しました。

財政面では、前年を上回る学生数による学生生徒等納付金の増加に加え、管理経費の見直し等による財務体質の強化を図った結果、約1億円の黒字決算となりました。しかしながら、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症に関連する学生への支援等多大な費用計上が必要となり、厳しい財政状況となる見込みです。より一層効率的な運営と安定した財政基盤の確立に努めてまいります。

さて、令和元年度の終盤から国内外において新型コロナウイルス感染症が流行しました。本学ではこれを踏まえ、学生に対する感染予防の啓発、海外留学帰国者に対する保健指導を行うとともに、大学・短大の学位記授与式の中止、幼稚園の休園を行いました。令和2年度においては、国の緊急事態宣言の発出、兵庫県の臨時休業要請を受け、大学生の登学を5月末まで禁止するとともに、インターネット等を活用した遠隔授業を上級生は4月20日から、新入生は5月7日から始めました。6月以降も、前期の授業は原則として遠隔授業により行うことにしています。また、学生に対して情報提供や相談対応に務めるとともに、国の修学支援新制度や学生支援緊急給付金の活用、本学独自の一律5万円給付や授業料減免の創設など各種の支援策を講じてまいりました。今後も、状況の変化に応じ、適時適切に支援を行ってまいります。

令和2年度は本学の創立80周年にあたります。これを機に、新学部の設置に向けた準備、国際教養学科の定員の見直し、高倉台幼稚園の認定こども園への移行等に果敢に取り組み、次の10年に向けた布石を打っていきたいと考えています。国、地域をはじめ関係の皆様のご支援ご協力をお願いします。

令和2年6月

学校法人行吉学園
理事長 行吉 宜孝

I 法人の概要

1 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
” 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
” 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を設置
” 26 年 2 月	学校法人吉学園に組織を変更
” 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を設置
” 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を設置
” 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
” 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を設置
” 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を設置
” 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を設置
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を設置
”	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を設置
” 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を設置
” 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を設置
”	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
” 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を設置
” 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を設置
” 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を設置
”	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を設置
”	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
”	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
”	神戸新装学院を廃止
” 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を設置
” 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
” 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
” 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
” 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
” 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
”	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
” 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
” 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
”	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
”	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置（平成 23 年 3 月廃止）
” 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
” 23 年 4 月	社会福祉法人神女さずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
” 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を設置
” 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
” 30 年 4 月	神戸女子大学文学部神戸国際教養学科を国際教養学科に名称変更
” 31 年 4 月	神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置

2 学校・学部・学科等の定員と現員（令和元年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	学部・学科等		入学定員	収容定員	現 員	摘 要
神戸女子大学大学院 (昭和59年4月設置)	家政学研究所 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	8
			後期	2	6	3
		生活造形学専攻	前期	6	12	2
			後期	2	6	4
		(小計)		18	40	17
	文学研究所 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	0
		英文学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	1
		教育学専攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	4
	(小計)		24	56	11	
	健康栄養学研究所 (修士課程)	健康栄養学専攻	4	8	8	
	看護学研究所 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	8	9
			後期	3	3	5
(小計)		11	11	14		
(合計)			57	115	50	
神戸女子大学 (昭和41年4月設置)	家政学部	家政学科	80	320	362	
		管理栄養士養成課程	160	610	619	
		(小計)	240	930	981	
	文学部	日本語日本文学科	60	240	280	
		英語英米文学科	60	240	253	
		国際教養学科	40	160	225	
		史学科	60	240	262	
		教育学科	165	660	696	
		(小計)	385	1,540	1,716	
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	320	285	
		健康スポーツ栄養学科	80	300	299	
		(小計)	160	620	584	
	看護学部	看護学科	90	330	361	
学校教育学専攻科		15	15	0		
(合計)			890	3,435	3,642	
神戸女子短期大学 (昭和25年4月設置)	幼児教育学科		100	200	159	
	総合生活学科		120	240	193	
	食物栄養学科		120	240	186	
	合計		340	680	538	
神戸女子大学附属高倉台幼稚園 (昭和48年4月設置)			100	200	140	
総 計			1,387	4,430	4,370	

* 幼稚園の入学定員欄は募集可能人員を示す。

3 学生・園児数の推移（過去5年間：毎年5月1日現在）

（単位：人）

区 分			平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
大 学 院	家政学研究科	博士前期	17	13	11	11	10	
		博士後期	7	6	8	6	7	
	文学研究科	博士前期	8	5	7	6	5	
		博士後期	4	5	5	6	6	
	健康栄養学研究科	修士課程	—	4	5	7	8	
	看護学研究科	博士前期	—	—	—	—	9	
		博士後期	—	—	—	—	5	
	合 計	博士前期	25	22(修士含む)	23(修士含む)	24(修士含む)	32(修士含む)	
		博士後期	11	11	13	12	18	
収容定員充足率			37.5%	33.0%	34.6%	34.6%	43.5%	
大 学	家 政 学 部		980	976	988	990	981	
	文 学 部		1,662	1,574	1,572	1,673	1,716	
	健 康 福 祉 学 部		584	548	555	564	584	
	看 護 学 部		86	178	266	352	361	
	合 計		3,312	3,276	3,381	3,579	3,642	
	収容定員充足率			106.8%	103.0%	103.1%	105.9%	106.5%
	学校教育学専攻科		3	1	2	2	0	
短期大学	幼 児 教 育 学 科		209	207	188	174	159	
	総 合 生 活 学 科		230	223	185	179	193	
	食 物 栄 養 学 科		253	232	189	188	186	
	合 計		692	662	562	541	538	
	収容定員充足率			92.3%	91.9%	80.3%	79.6%	79.1%
幼 稚 園	合 計		213	196	169	159	140	
	収容定員充足率			106.5%	98.0%	84.5%	79.5%	70.0%

4 教職員数の推移（過去5年間：毎年5月1日現在）

（単位：人）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
本務教員	神戸女子大学	169	178	179	181	185
	神戸女子短期大学	41	39	40	40	38
	高倉台幼稚園	7	7	7	7	8
	合 計	217	224	226	228	231
兼務教員	合 計	289	294	301	314	318
本務職員	法 人 本 部	9	9	9	9	8
	神戸女子大学	66	69	70	72	68
	神戸女子短期大学	16	14	13	11	10
	高倉台幼稚園	2	3	3	3	3
	合 計	93	95	95	95	89
兼務職員	合 計	133	134	143	142	132
本務教職員合計		310	319	321	323	320

* 本務教職員（平均年齢）教員 52.5 才・職員 48.8 才、（平均勤続）教員 12.4 年、職員 17.0 年 [令和元年5月1日現在]

5 役員概要（令和元年7月1日現在）

（1）理事

[定数：8名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	選任区分	摘要
理事長	行吉 宜孝	常勤	学識経験者	平成22年6月 就任 平成31年4月 理事長就任
理事	栗原 伸公	常勤	神戸女子大学長	平成30年6月 就任
	今井 修平	常勤	評議員	平成18年4月 就任
	前田 研史	常勤		平成31年4月 就任
	伊吹 眞澄	常勤		平成30年6月 就任
	杉原 基弘	常勤		平成31年4月 就任
	根岸 成直	非常勤		学識経験者
	小川 清四郎	非常勤	平成30年6月 就任	

*選任区分は寄附行為第6条第1項第1号～第3号において規定

（2）監事

[定数：3名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
監事	横田 成樹	非常勤	平成26年6月 就任
	亀井 尚也	非常勤	平成23年5月 就任
	芳木 伸吉	非常勤	平成18年6月 就任

*寄附行為第7条において規定

6 評議員概要（令和元年7月1日現在）

[定数：20名 任期：4年]

氏名	主な現職等	選任区分	摘要	
多畑 寿城	行吉学園事務職員	法人の職員	平成31年4月 就任	
長瀬 荘一	神戸女子短期大学教授		平成14年6月 就任	
伊吹 眞澄	行吉学園事務職員		平成30年6月 就任	
杉原 基弘	行吉学園事務職員		平成31年4月 就任	
廣畑 俊介	行吉学園事務職員		平成18年9月 就任	
山脇 喜子		卒業生	平成30年6月 就任	
羽多 悦子			平成30年6月 就任	
市川 清美			平成30年6月 就任	
糸井 亜弥	神戸女子大学准教授		平成18年6月 就任	
吉田 千佳子			平成18年6月 就任	
林 利恵子	神戸女子大学准教授		昭和55年7月 就任	
春木 和子			平成16年7月 就任	
十一 玲子	神戸女子大学准教授		平成14年6月 就任	
吉田 幸世	神戸女子大学技術職員		平成18年6月 就任	
今井 修平	神戸女子大学教授		学識経験者	平成18年4月 就任
前田 研史	神戸女子大学副学長	平成31年4月 就任		
森野 茂樹		平成18年6月 就任		
木村 奈帆子	神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長	平成31年4月 就任		
浅木 森 和夫	神戸女子短期大学教授	平成22年6月 就任		
山本 達也		教育後援会会長		令和元年6月 就任

*選任区分は寄附行為第22条第1項第1号～第4号において規定

7 理事会・評議員会の開催状況（令和元年度）

（1）理事会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数8名)		
			出席	欠席	計
1	平成31年 4月1日 (月)	・理事長選任に関する件	7	1	8
2	令和元年 5月24日 (金)	・平成30年度事業報告について ・平成30年度決算について	8	0	8
3	令和元年 5月24日 (金)	・神戸女子大学学則の一部改正について ・令和元年度賞与支給率について ・退任役員等への功労金等の支給について ・私立大学等経常費補助金の交付概要について（報告） ・令和元年度入学試験の結果及び令和2年度入学試験等の概要について（報告）	8	0	8
4	令和元年 12月23日 (月)	・私立学校法の改正等に伴う学校法人行吉学園寄附行為の一部変更について ・神戸女子大学文学部国際教養学科の定員変更に伴う学則の一部改正について ・学校法人行吉学園資産運用規程等の一部改正について ・神戸女子大学附属高倉台幼稚園の認定こども園への移行について ・令和2年度推薦入試等の状況について（報告）	8	0	8
5	令和2年 3月25日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度補正予算について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度予算について ・学校法人行吉学園ガバナンス・コードの制定について ・学園諸規程の制定及び一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 私立学校法の改正に伴う規程の制定及び一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 学校法人行吉学園役員の報酬等に関する規程及び学校法人行吉学園評議員の報酬等に関する規程の制定 イ 情報の公開及び開示に関する規程の制定 ウ 行吉学園監事監査規程の一部改正 (2) 学則の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 神戸女子大学学則の一部改正 イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正 ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正 (3) 神戸女子大学・神戸女子短期大学教学組織規程の制定 (4) 事務組織規程の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 行吉学園事務組織規程の一部改正 イ 神戸女子大学事務組織規程の一部改正 ウ 神戸女子短期大学事務組織規程の一部改正 ・理事の競業又は利益相反取引について ・理事長の報酬について ・大学入試センター試験における過失について（報告） ・令和2年度入試試験の結果について（報告） ・理事会議決内容の一部変更について（報告） ・教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告） 	8	0	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数20名)		
			出席	欠席	計
1	令和元年 5月24日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子大学学則の一部改正について ・令和元年度賞与支給率について ・平成30年度事業報告について(報告) ・平成30年度決算について(報告) ・令和元年度入学試験の結果及び令和2年度入学試験等の概要について(報告) 	18	2	20
2	令和元年 12月23日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法の改正等に伴う学校法人行吉学園寄附行為の一部変更について ・神戸女子大学文学部国際教養学科の定員変更に伴う学則の一部改正について ・学校法人行吉学園資産運用規程等の一部改正について ・神戸女子大学附属高倉台幼稚園の認定こども園への移行について ・令和2年度推薦入試等の状況について(報告) 	19	1	20
3	令和2年 3月25日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度補正予算について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度予算について ・学校法人行吉学園ガバナンス・コードの制定について ・学園諸規程の制定及び一部改正について <ol style="list-style-type: none"> (1) 私立学校法の改正に伴う規程の制定及び一部改正 <ol style="list-style-type: none"> ア 学校法人行吉学園役員の報酬等に関する規程及び学校法人行吉学園評議員の報酬等に関する規程の制定 イ 情報の公開及び開示に関する規程の制定 ウ 行吉学園監事監査規程の一部改正 (2) 学則の一部改正 <ol style="list-style-type: none"> ア 神戸女子大学学則の一部改正 イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正 ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正 (3) 神戸女子大学・神戸女子短期大学教学組織規程の制定 (4) 事務組織規程の一部改正 <ol style="list-style-type: none"> ア 行吉学園事務組織規程の一部改正 イ 神戸女子大学事務組織規程の一部改正 ウ 神戸女子短期大学事務組織規程の一部改正 ・大学入試センター試験における過失について(報告) ・令和2年度入試試験の結果について(報告) ・評議員会議決内容の一部変更について(報告) ・教職員の異動(退職者・採用予定者)について(報告) 	19	1	20

8 施設等の状況（令和2年3月31日現在）

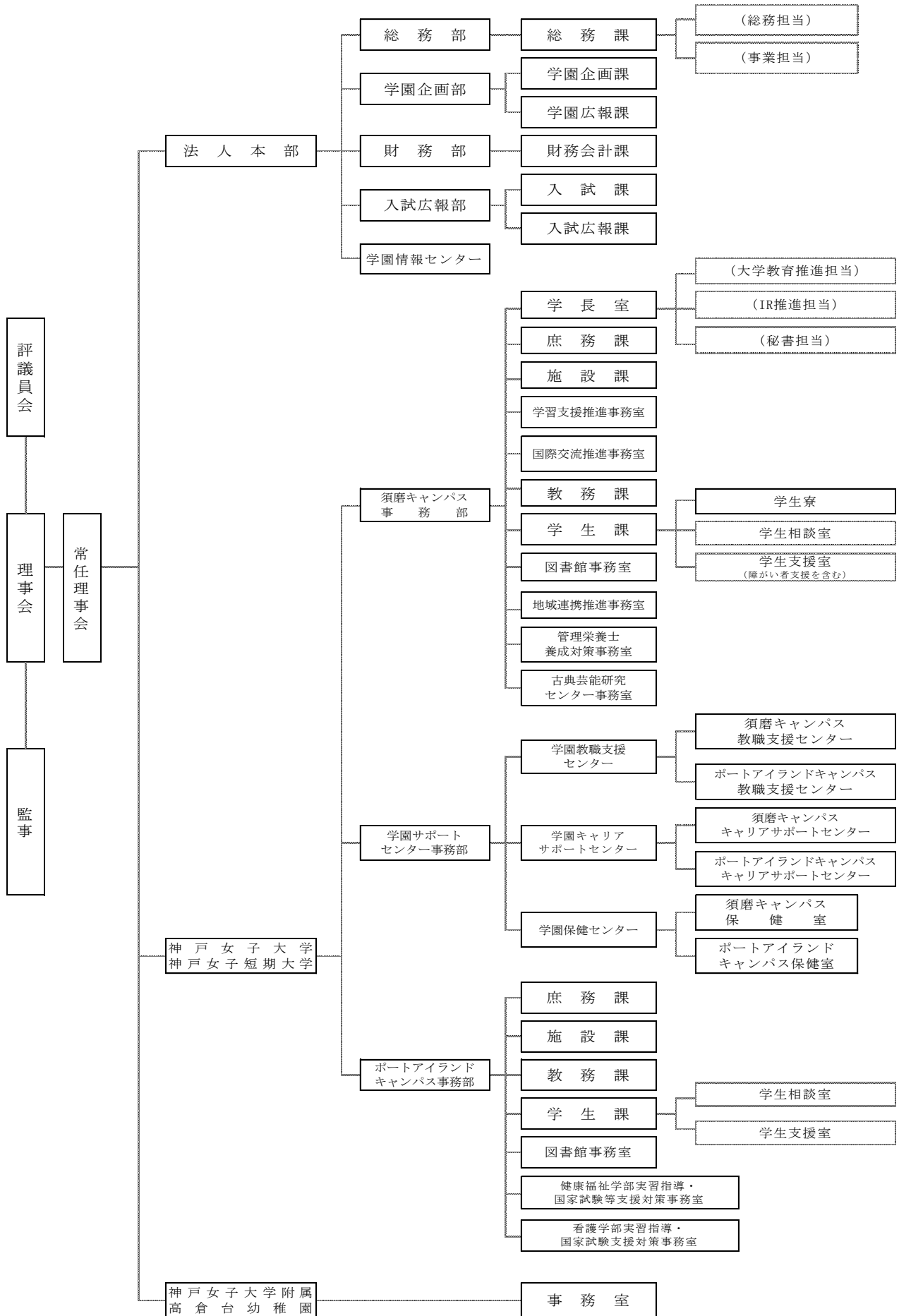
(1) 土地

区分	所在地	面積（㎡）	摘要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	133,389.12	神戸女子大学専用
P I キャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	高倉台幼稚園専用
小計		165,411.54	
寄宿舍（行幸寮・天神寮）	兵庫県神戸市須磨区	3,128.13	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合計		169,605.66	

(2) 建物

区分	面積（㎡）	摘要	
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体育館	3,460.50	
	図書館	6,081.45	
	実験室	57.60	
	守衛室	68.76	
	クラブ室	986.85	
	食堂	2,115.98	
	会館	246.80	
小計	39,649.68		
P I キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守衛室	47.93	
	体育館	2,334.04	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
小計	37,191.82		
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎（体育館を含む）	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園 (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	1,398.61	高倉台幼稚園専用
寄宿舍（行幸寮・天神寮） (兵庫県神戸市須磨区)		4,412.56	神戸女子大学専用
セミナーハウス (米国ハワイ州ホノルル)		1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎 (兵庫県神戸市須磨区)		436.64	
合計	91,249.44		

9 法人組織構成図 (平成31年4月1日現在)



II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成することを教育目標とする。これら自立心、対話力、創造性を十分に備える者として、知識・技能、能力及び資質が各学部・学科及び課程の定める基準に達しており、かつ所定の卒業要件を満たした者に、学位を授与する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程が定める人材育成・教育研究上の目的を達成するための教育課程を編成し、自立心、対話力、創造性を培う教育内容及び方法を実施する。

(3) 入学者の受入れに関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程の人材育成・教育研究上の目的に定める人材を育成するために、多様な能力を身に付けた学生を求める。

※各学科・課程、研究科ごとの方針は本学のホームページを参照ください。

2 令和元年度事業計画の進捗状況

中期目標並びに中期計画を達成していくために、令和元年度に取り組むべき施策の中から主な施策について取りまとめた令和元年度事業計画の進捗状況は以下のとおりである。

(1) 教育に関する目標を達成するための計画

(1-1) 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

- ・平成30年度及び令和元年度に学生に対して試行した大学全体の教育目標「自立心・対話力・創造性」の到達度調査を分析した結果、学習進度に応じて期待される傾向をとらえることができたので、到達度調査を令和2年度以降正式運用することを決定した。

- ・大学では、シラバスに、学科のディプロマ・ポリシーと「自立心・対話力・創造性」が示す資質・能力等について明記するなど、大幅な項目追加を行い、令和2年度から適用する。短大では、シラバスを改訂し、ディプロマ・ポリシーと授業評価方法との関連を明示するとともに、課題やレポート等のフィードバックを明らかにしたほか、これらをもとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの更新を行った。

(1-2)教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

- ・各学科、各研究科等の計画に対する進捗状況は別記のとおり

(1-3)教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）を達成するための計画

- ・英語1-1、1-2において、「神女ドリル」英語ステップアップコース「実力診断結果」を用いて能力別クラスの編成を行い、令和2年度時間割に反映した。英語英米文学科、国際教養学科、史学科の3学科は独自に能力別クラスを編成することになった。
- ・大学・短大の教養科目の一体運用について、令和2年度に全学共通教育部が短大の教養科目も担当し、主体的に検討することになった。

(1-4)教育課程に関する目標を達成するための計画

- ・ナンバリングについて、大学では、学生が学びの体系を理解できるよう、平成30年度から導入し、学科ごとのカリキュラムマップ及びシラバスと併用して学生の履修指導に活用している。短大では、令和元年度から導入し、他校の例を参考に利用の検討を行った。
- ・GPAの活用について、大学では、GPA値を担任教員、保証人に配布するとともに、学生がKISSシステムで自分のGPA値を、ホームページで学科のGPA分布表を見て、自身のレベルを確認できるようにした。GPA値1.5以下及び学科全体の1/4以下の学生の学修指導に利用している。短大では、GPAの信頼性を高めるため、成績評価ガイドラインを策定した。
- ・CAP制の厳格化について、大学では、認証評価で指摘を受けた4学科と管理栄養士課程でCAP50単位未満とすることを決定し、令和2年度入学生から適用する。短大では、短大の学びにおける効果、授業外学習時間の伸び等について検討している。
- ・不開講及び廃止科目の基準について、常任理事会で学生5人以下とする内規が決定され、大学では、令和2年度に少人数受講科目が大幅に整理されることになった。短大では、免許・資格関係科目を除き、必要性の低い科目を削減した。

(1-5) 教育方法に関する目標を達成するための計画

- ・ 大学では、「授業アンケート」について、令和元年度よりマークシート方式を全面的に導入し、回答率が平成30年度より大幅に向上した(前期 28.6→86. %、後期 44.7→87.6%)。現在、「授業アンケート」の全学共通設問の改訂を進めている。
- ・ 短大では、「学修成果に関する授業アンケート」の実施を全教員に前期1回、後期1回義務づけており、教養科目、専門科目あわせた回答科目の件数は前期 227 件(97.8%)、後期 211 件(94.6%)であった。内部質保証に関する研修会を「学修成果の可視化を通じた教学改革の実現」をテーマに開催し、教員 37 名、職員 6 名が参加した。

(1-6) 国際化に関する目標を達成するための計画

- ・ 派遣留学プログラムの教員引率について、既存プログラムではハワイ大学及びカセサート大学を廃止したが、引率教員による専門内容の説明が必要なものもある。新たにチェンマイ大学等と専門分野の交流の萌芽があり、その動きの中で教員引率のない派遣留学プログラムの開発を検討していく。
- ・ 英語ルームについて、須磨キャンパスで、後期より非常勤講師による English Lesson を週 1 回試行した。P I キャンパスでは、留学生交流会に英語カフェ的な要素を交えて実施した。

(2) 研究に関する目標を達成するための計画

(2-1) 研究業績に関する目標を達成するための計画

- ・ 大学では、職位ごとに1年間及び5年間に最低限必要な業績の基準を検討することについて、評価の指標をさまざまに検討した。短大では、昇任評価を準用したポイント制等の運用について検討中である。
- ・ 社会貢献も視野に入れた研究の活性化を促進するため、学外研究費に関する情報の収集及び周知に努めた。

(2-2) 学生の研究に関する目標を達成するための計画

- ・ 学部生・短大生の研究・探究の表彰制度について、史学科で卒業論文優秀賞をつくり、3名程度を表彰することにしたほか、日本語日本文学科で優秀な卒業論文を選出した冊子「卒業論文梗概集抄」を発行し顕彰した。
- ・ 大学院生と学部生の交流機会について、大学院生の研究報告会や実験への学部生の参加、合同の「文学散歩」など、徐々に交流の機会は増えている。

(3) 社会貢献に関する目標を達成するための計画

- ・大学間連携については、「コンソーシアムひょうご」の各委員会に参加し連携強化を図った。
- ・ローズフェスタに代わるイベントについて、クラブやゼミ、個人が主体的に活動できるよう備品整備、情報発信を行い、写真部、ビブリオ部、キッズリーダー部、茶道部等が参加した。
- ・地域貢献活動の情報蓄積システムの開発について、地域連携活動の依頼をファイルにまとめ学生が閲覧できるようにするとともに、ボランティアに興味ある登録学生 52 名に LINE で随時情報を発信した。
- ・公開市民講座について、「一日大学生になってみよう」という共通テーマのもとに、10 名の講師が研究課題を講演した。
- ・高大連携事業については、新たに北須磨高校と協定を締結し、合計 3 高校となった。

(4) 学生の進路に関する目標を達成するための計画

(4-1) 進路支援に関する目標を達成するための計画

- ・キャリア支援委員会で PBL 型（課題解決学習型）の新規インターンシッププログラムの導入等について審議した。新たに導入した就職支援システム S-NAVI を活用し、学生の就職活動情報を管理し、学科からの問い合わせに即時に対応した。
- ・編入学について、学園内編入説明会の実施、編入学担当による進路相談、キャリアサポートセンター内の資料設置により、編入学希望者 12 名のうち 11 名が合格した。

(4-2) 専門就職に関する目標を達成するための計画

- ・オリエンテーションや学科行事の時間を利用し、学生の志向や専門知識を活かした就職ができるよう、学科と連携した職種ごとの就職ガイダンスを実施した。
- ・教員採用試験情報、採用試験対策講座日程、実習情報等を大学の教職支援センター運営委員会や短大の教員養成カリキュラム委員会で、各学科等へ情報提供するとともに、新たに教職指導を専門的に行う職員を配置したことにより、1 次試験終了前からの教職対策の実施、体育実技・模擬授業等に特化した指導、自治体に応じた面接指導ができ、2 次試験対策の利用学生が増加した（3 月末延べ 1,950 人、昨年比 2.8 倍）。
- ・兵庫県と共催の法定研修を引き続き行うとともに、出身学生の多い香川県の教育委員会と懇談会を開催し、同県の教育方針、本学の支援状況等について意見交換した。

(4-3) 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

- ・就職活動を終えた学生全員に対し S-NAVI を活用し、就職先の満足度、キャリアサービスセンターの満足度等など「就職満足度調査」を実施し、集計中である。
- ・優良企業の学内説明会を須磨キャンパスで約 240 社、PI キャンパスで約 80 社開催した。

(4-4) 公務員就職に関する目標を達成するための計画

- ・公務員ガイダンスを前期に、須磨キャンパスで4回、P I キャンパスで2回実施した結果、有料の公務員講座を須磨で1～3回生73名、P I キャンパスでは3回生中心に12名が受講した。令和元年度よりWEB講座を追加した。1～2回生は増えたが、3回生になると減る傾向が続いている。

(4-5) Uターン就職に関する目標を達成するための計画

- ・地方企業との関係強化を目指し、自治体、商工会議所が実施する地方企業と大学関係者との情報交換会に10回参加し、202社と情報交換を行った。
- ・中国・四国地方全12県とUターン協定の締結を進めているが、令和元年度に岡山県、徳島県と締結し、締結県は合計9県となった。
- ・平成30年度、令和元年度の卒業生進路調査を分析した結果、Uターン希望者のうち9割がUターン就職を果たしていることが判明したので、学生募集に役立てていく。

(5) 学生支援に関する目標を達成するための計画

(5-1) 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

- ・平成29年度、平成30年度の退学理由を分析した結果、進路変更、病気けが、学業不振が退学理由の8割を占めることが判明したので、収集した他大学の調査内容を参考に学生満足度調査の内容を検討している。
- ・クラブ活動の活性化対策について、須磨キャンパスでは、オリエンテーション期間にクラブ勧誘ブースを設置するとともに、4～5月に見学体験スタンプラリーを実施した結果、全体的な加入率の引き上げに至らなかったものの、一部のクラブで新入生獲得につながった。P I キャンパスでは、体育館を使用する任意グループに働きかけた結果、バスケットボール部が発足した。

(5-2) 経済的支援に関する目標を達成するための計画

- ・令和2年度からスタートする国の修学支援制度の学内体制を整備した。
- ・公営住宅、UR住宅等で低家賃住宅として学生に紹介できる物件について、神戸市、UR都市機構にヒヤリングしたが、防犯カメラ、オートロック等学園が求める基準をクリアできる物件はなかった。

(6) 施設・設備に関する目標を達成するための計画

- ・須磨キャンパスではM館・F館の外壁改修、A館調理実習室の改修等、P I キャンパスではD館ラウンジ空調改修、A館実験台の更新等、いずれも工期どおりに整備した。
- ・学生アンケートの設備、施設に関する項目を重点的に改修・整備することについては、

須磨キャンパスではその他の既存設備に緊急の課題があり、進捗していない。P I キャンパスではアンケートを参考に施設整備の不備を改修した。

- ・須磨キャンパスでは、A 館ラウンジの更新を想定し、令和元年度に噴水、中庭、掲示板、歩車分離歩道等の改修計画を作成した。P I キャンパスでは、カフェスペースの設置を検討中である。
- ・ハワイセミナーハウスの改修を実施した。

(7) 入試広報に関する目標を達成するための計画

- ・具体的な情報を発信して本学の特長の認知度を高めることについて、キャリアサポートセンターと連携し、「大学案内」に就職や免許・資格取得の実績、サポート体制を掲載するとともに、冊子「スマイルナビ」にUターン就職支援の特集を組み、地方の受験生の視点に立った情報発信を行った。両誌には実績数値、企業の採用担当者の声も掲載した。
- ・志願者の動向を分析し重点地域の設定を行うことについて、四国エリア特に愛媛県を重点エリアに設定し推薦・一般入試の地方会場を設定するとともに、神戸西地区を重点エリアに設定し高校訪問を強化した。

(8) 幼稚園に関する目標を達成するための計画

- ・定員確保に向け、こども園への移行を含めた運営形態、運営方法の見直しについて、幼保連携型認定こども園への移行を決定した。
- ・預かり保育の充実について、19時まで延長し、利用日数 229 日、利用人数 3,856 名に増加した（昨年度比 1.2 倍）。
- ・完全給食の実施等を行った結果、令和 2 年度在園者数は、昨年度の 147 名（令和元年 5 月 1 日現在、2 歳 7 名・満 3 歳 1 名を含む）を上回る 164 名を確保した（令和 2 年 5 月 1 日現在、2 歳 6 名・満 3 歳 4 名を含む）。

(9) 組織に関する目標を達成するための計画

(9-1) 定員充足に関する目標を達成するための計画

- ・常任理事会において、定員未充足を解消する対策に取り組む学科の基準や短大の定員の実質化を検討した。

(9-2) 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

- ・大学・短大の委員会の合同会議について、危機管理委員会、防火・防災委員会、学生課関連委員会等で、議題に応じ、キャンパス単位での大・短合同開催を実現した。委員会の統廃合について、学術研究推進委員会、全学共通教育運営委員会、国際交流委員会、入試委員会など委員会の統合を行った。

- ・大学・短大の一体的運用に向け、大学と短大の教学組織を統合したほか、短期大学部長が加わる部局長等会議を設置した。大学教育推進会議は大学・短大の統一会議として進めている。

(10) 財政に関する目標を達成するための計画

- ・管理経費の比率が高い部について、令和2年度予算申請の経常費・臨時費の枠を設定し、臨時費に事業計画書の提出を義務づけた。令和2年度予算に向けて、共通教育費の配分方法の見直しを行なった。短大については、収容定員の変更に伴う予算減額措置をこれまで繰り返し延べてきたが、令和2年度予算から減額を実行した。
- ・専任職員の採用計画を作成し、退職見込み、想定される事務の見込みを踏まえ、当面の採用予定数を把握した。平成30年4月に95名であった専任職員数は、平成31年4月に実施した一部の課の定員削減、年度途中の急な退職等により、一時89名まで減少したが、退職者補充等により令和2年4月に92名になる見込みである。
- ・令和2年度より教員に裁量労働制、教諭に変形労働時間制を導入する。

(別記)

(1-2) 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

① 神戸女子大学

文学部

日本語日本文学科

- ・1年次のカリキュラムを見直し、「日本語日本文学入門Ⅰ」を古典等に親しみやすいよう検討し、令和元年度から実施した。2年次以上のカリキュラムを見直し、基礎学力向上のため「日本語表現Ⅰ」「同Ⅱ」を設定し、令和元年度から実施した。
- ・夏季休暇中のボランティア、インターンシップ等への積極的な参加を促し、外国人への学習サポートや図書館ボランティアで神女賞を受けた。

英語英米文学科

- ・アドバンストクラスの導入について、8年前から、新入生は4月のプレースメントテストで、在學生は前年度のTOEICのスコアでクラス分けを行っており、アドバンストクラスにふさわしい学生の選抜を行っている。
- ・TOEIC点数を全員700点以上にするための方策について、レベル別3クラスの集中講座を8月に5日間実施し、いずれのクラスも平均点が100点以上上昇した。

国際教養学科

- ・少人数クラスの演習室についてスペース委員会に検討を依頼する予定である。留学生受入プログラムの開発は情報収集中である。
- ・外国語を活用したフィールドワークの開拓に向け、「大阪SGGクラブ」など観光通訳NPO法人等の情報を収集している。

史学科

- ・歴史についての基礎知識や基礎技能を充実させ、伝統的な歴史学の基本原則や学問作法を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるカリキュラム編成と指導体制を

学科会議で検討している。

- ・授業内容に具体的なイメージをもてるような副題を全科目に付すようシラバスを作成中である。

教育学科

- ・新課程のカリキュラムマップを作成し、カリキュラムを整えた。再課程のカリキュラムを点検し整備した。
- ・中学校教諭（英語）導入に伴うコース改変について、コース制度及びカリキュラムの詳細な検討を行い、令和2年度から4コース制をスタートする体制を整えた。
- ・教員採用試験の2次試験対策へ全教員が参画する体制について、コースとして取り組み、ゼミ単位で、それぞれの専門分野からサポートを行った。

家政学部

家政学科

- ・平成30年度に策定したカリキュラム改訂案について、家政学全分野にわたる学修と専門領域の学修のバランスを視野に再度見直し、教授会の承認を得た。
- ・学生の専門性を活かした資格取得について、オリエンテーション、授業、ゼミで資格、受験資格を説明し、また、勉強会、模擬テスト、過去問題集解説等を実施し、繊維製品品質管理士、色彩検定1級、ファイナンシャルプランナー3級、教職等の合格者がでている。

管理栄養士養成課程

- ・ディプロマポリシーに合致した専門性を伸ばすカリキュラムの検討について、教員の人事計画に合わせてカリキュラムを改編する計画を学科会議で検討し、方向性の合意が得られた。
- ・国家試験全員合格に向けたゼミ単位での支援について、4回生の模擬試験成績不良者のゼミ単位でのリストアップや課題提出の確認を行った。

健康福祉学部

社会福祉学科

- ・社会福祉士養成カリキュラムの令和3年度改正に合わせ、教員が日本ソーシャルワーク学校教育連盟のセミナーに参加し情報収集するとともに、学科でタスクフォースを立ち上げ、新カリキュラムの作成に着手した。
- ・学年横断的な取組の強化について、各学年が実施する「赤ちゃん先生」等の合同授業、実習報告会、卒論発表等に学生が学年横断で参加した。

健康スポーツ栄養学科

- ・令和元年度に中学校教諭一種免許状（保健体育）及び高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程認定申請を行い、認定されたので、令和2年度からの課程の開設準備を進めている。
- ・卒業論文の評価基準を明確化するため、栄養系・運動系を総合したルーブリックを作成し、令和元年度の卒業論文の評価を試行した。

看護学部

看護学科

- ・学科教育の特色の明示について、平成30年度末に全学年を対象に行った看護学科教育評価結果から、「学びのグループゼミ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）」による「人間性の涵養」「看護の表現力」「協働・協力」の育成への効果がみえたので、研究助成事業の成果をまとめ公表した。
- ・卒業生のフォローアップ及び相談窓口を Web 上に開設することについて、大学看護学科ホームページ内に「看護学部卒業生専用コミュニティ」サイトを開設し運用している。卒業生専用LINE@「SHINJO Nurse's Café」を開設し、卒業生へ最新情報を発信している。

学校教育学専攻科

- ・学部との接続強化について、会議で各ゼミでの勧誘を依頼した。

②神戸女子大学大学院

文学研究科

- ・指導教員に必要とされる業績数について、研究科委員会で議論した結果、大学院担当教員として最低限必要とされる業績数を「5年間で3本程度の論文等」とすることで合意した。

家政学研究科

- ・大学院のPR強化について、夏のオープンキャンパスでの大学院コーナーの設置、大学院進学説明会の実施、4回生オリエンテーションや3回生管理栄養士就職ガイダンスでの大学院の説明、教員免許更新講習会における大学院の紹介を行った。

健康栄養学研究科

- ・教員5名が4学会で発表を行った。大学院生は2学会に参加した。
- ・ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー制度の可能性について、他大学の例からイメージづくりを行った。

看護学研究科

- ・設置申請内容に沿い、着実に初年度の運営を行った。

③神戸女子短期大学

総合生活学科

- ・GPAの目標を2.0以上、3.0以上20%を目標にしていたところ、1年次後期、2年次前期・後期で目標を達成した。
- ・科目数の削減と集中について、「工芸演習」等7科目を削減し、1科目の担当を非常勤講師から専任教員に変更した。

食物栄養学科

- ・学外フィールドワーク科目の設定について、食文化栄養学セミナー「食」と神戸 を開講した。
- ・卒業生への国家試験対策については、実務経験を経て日本で一番管理栄養士になれる短大を目指し、管理栄養士試験対策講座を開設し、実務者の希望を募った。

幼児教育学科

- ・保育実践力向上に向けた取組として、2年次生全員が学科行事「きずなDAY」にゼミ単位の学修成果の発表の場として参加し、親子遊び等のプログラムを実施し、保育実践力の向上につながった。
- ・保育実践力を特長にしたカリキュラム編成については、シラバスに保育実践力を明記した。

3 特記事項

(1) 卒業生・修了者数の状況

令和元年度(9月卒業を含む)に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。

(単位:名)

区 分	学部・学科等		前 期	後 期	計
神戸女子大学大学院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	2	1	3
		生活造形学専攻	2	1	3
		(小計)	4	2	6
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	0	0	0
		英文学専攻	1	1	2
		日本史学専攻	2	0	2
		教育学専攻	0	0	0
		(小計)	3	1	4
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	5	—	5
	(合計)		12	3	15
神戸女子大学	文 学 部	日本語日本文学科	57		
		英語英米文学科	45		
		神戸国際教養学科	41		
		史 学 科	53		
		教 育 学 科	155		
		(小計)	351		
	健康福祉学部	社会福祉学科	58		
		健康スポーツ栄養学科	57		
		(小計)	115		
	家 政 学 部	家 政 学 科	91		
		管理栄養士養成課程	156		
		(小計)	247		
	看 護 学 部	看 護 学 科	90		
学校教育学専攻科		0			
(合計)		803			
神戸女子短期大学	総合生活学科		94		
	食物栄養学科		97		
	幼児教育学科		79		
	(合計)		270		

(2) 国家試験の受験・合格状況

令和元年度における国家試験（9月卒業を含む）の受験・合格状況は、以下のとおりである。

試験区分	年度	受験	合格者	合格率	全国平均合格率	全国新卒平均合格
管 理 栄 養 士	令和元	148	134名	90.5%	(61.9%)	(92.4%)
	平成30	152	147名	96.7%	(60.4%)	(95.5%)
	平成29	142	136名	95.8%	(60.8%)	—
社 会 福 祉 士	令和元	41名	33名	80.5%	(29.3%)	(56.0%)
	平成30	56名	44名	78.6%	(29.9%)	(53.7%)
	平成29	48名	29名	60.4%	(30.2%)	—
精 神 保 健 福 祉 士	令和元	5名	4名	80.0%	(62.1%)	(74.0%)
	平成30	9名	9名	100.0%	(62.7%)	(77.0%)
	平成29	5名	4名	80.0%	(62.9%)	—
介 護 福 祉 士	令和元	15名	15名	100.0%	(69.9%)	(80.0%)
	平成30	16名	16名	100.0%	(73.7%)	(83.7%)
	平成29	22名	22名	100.0%	(70.8%)	—
看 護 師	令和元	90名	88名	97.8%	(89.2%)	(94.7%)
	平成30	78名	76名	97.4%	(89.3%)	(94.7%)
保 健 師	令和元	18名	18名	100.0%	(91.5%)	(96.3%)
	平成30	20名	19名	95.0%	(81.8%)	(88.1%)
助 産 師	令和元	6名	6名	100.0%	(99.4%)	(99.5%)
	平成30	3名	3名	100.0%	(99.6%)	(99.9%)

(3) 学習支援センター等

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			P I キャンパス		
基礎科目ミニ講義	理 科	40回 (59名)	基礎科目グループ学習	数 学	実施なし
	数 学	40回 (82名)		国 語	40回 (0名)
	国 語	40回 (481名)		数 学	週2回 (7名)
基礎科目個別相談	理 科	週2回 (100名)	基礎科目個別相談	国 語	週2回 (20名)
	数 学	週2回 (130名)		数 学	週2回 (7名)
	国 語	週2回 (319名)	キャリアサポートでの相談	国 語	週1回 (0名)
	理 科 (分室)	週2回 (33名)			
その他施設利用	教科書販売	4月1日～4月5日			
	キャンパス見学・交流会	1回			
	教員免許更新講習	1回			
	授業・打ち合せ等	1回			

【ランゲージ・カフェ】

【その他】

本学外国人教員による海外文化に触れるイベント	2回	新任等教員 manaba 説明会 (須磨キャンパス)	1回
留学生学修成果発表会	3回	新任等教員 manaba 説明会 (PI キャンパス)	1回
留学生歓迎会・送別会	4回	ライブラリー・コモンズ教員 manaba 研修会	1回
海外大学職員による外国語レッスン	6回	コモンズ・サポーター主催点字教室	2回
海外大学生による英語レッスン・大学紹介	7回	コモンズ・サポーター主催イベント	3回
海外研修説明会・オリエンテーション	17回		
外国人講師による‘英語で話そう’(英語ルーム)	7回		
ランゲージ・カフェ・ミニ講義	2回		

(4) 国際交流事業

① 静宜大学との交換留学プログラム

台湾・静宜大学と交換留学プログラムを開始。国際教養学科において2名の留学生を1年間受け入れ、同学科より2名の学生が静宜大学へ1年間留学した。毎年2名の派遣及び受け入れを基本とし、継続する。

② 英語ルーム

英語ルームの整備の一環として、ランゲージカフェにおいて週1回の英語レッスンを実施し、2～6名の学生が参加した。また、海外との通信による交流の機会として、バーレーンの学生とスカイプを利用した英語での交流を開始した。

ア 海外研修等の実施状況

(単位:名)

派遣先大学・機関等	研修・留学名	派遣学生数		
		大学	短大	計
華南師範大学	交換留学 ※2	2	—	2
	言語文化学習サービス・ラーニング プログラム	1	—	1
ハワイ大学	セメスタープログラム(前期) ※1	15	—	15
	セメスタープログラム(後期) ※1	0	—	0
	英語研修(夏期)	0	0	0
	英語研修(春期)	11	2	13
ケント大学	英語研修 ※1	19	—	19
	Junior Year Abroad English Plus	3	—	3
	日本語教授補助インターンシップ	1	—	1
フライブルク大学	ドイツ語研修	17	—	17
ピッツァー大学	サマープログラム ※1	21	—	21
オークランド工科大学	短期日本語教育研修	1	—	1
カリフォルニア州立大学 ポリテクニク大学ポモナ校	英語学習&サービス・ラーニングプログラム ※1	7	—	7
カセサート大学	国際ビジネス・タイ文化学習サービス・ラーニングプログラム	4	—	4
チェンマイ大学	英語・タイ文化学習サービス・ラーニングプログラム ※1	13	—	13
高麗大学	韓国語研修	13	—	13
静宜大学	交換留学 ※1(受入のみ)	2	—	2
	中国語研修	8	—	8
クアキニ・ヘルスシステム	病院実習	1	—	1
ウダヤナ大学	国際健康福祉プログラムⅠ	2	—	2
ホーエンフロイデンシュタット病院	国際健康福祉プログラムⅡ	4	—	4
デンマーク(高齢者センター他)	国際健康福祉プログラムⅢ	17	—	17
合 計		162	2	164

※1 日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度対象 ※2 HUMAP留学生交流推進制度対象

イ 海外からの留学生・研究者受け入れ

【留学生】 日本語日本文学科：華南師範大学 2 名、ウダヤナ大学 1 名

国際教養学科：静宜大学 2 名

【短期研修】 英語英米文学科：ケント大学 1 名

健康福祉学部：ウダヤナ大学医学部 4 名

【ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 HORN 研究者交流事業】

社会福祉学科：ウダヤナ大学医学部 講師 1 名

【日本・アジア青少年サイエンス交流事業・さくらサイエンスプラン】

社会福祉学科：ウダヤナ大学医学部 講師 1 名、医学部・文学部学生 5 名

(5) 図書館

① 図書館システムの更新

須磨キャンパス図書館、P I キャンパス図書館は共同で図書館システムを更新し、蔵書検索画面に書影（図書の表紙画像）を表示するなど、利便性を高めた。

② 学術機関リポジトリの開設

須磨キャンパス図書館、P I キャンパス図書館、情報センターが共同で学術機関リポジトリを開設し、博士論文、紀要掲載論文の登録を進めている。

ア 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

開館時間（平日 19:30 まで・土曜日 10:00～17:00）

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開 館 日 数	268 日	266 日	263 日
入 館 者 数	111,632 名	113,619 名	107,793 名
貸 出 冊 数	23,905 冊	22,344 冊	21,737 冊
貸出冊数（1 名あたり）	8.7 冊	8.0 冊	7.7 冊
AV コーナー利用者数	2,345 名	2,088 名	1,132 名

【P I キャンパス】

開館時間（平日 21:00 まで・土曜日 10:00～17:00）

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開 館 日 数	252 日	277 日	270 日
入 館 者 数	36,642 名	34,217 名	35,109 名
貸 出 冊 数	13,156 冊	12,042 冊	16,291 冊
貸出冊数（1 名あたり）	5.2 冊	6.1 冊	8.8 冊
AV コーナー利用者数	53 名	40 名	19 名

イ 資料受入状況

【須磨キャンパス】

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
蔵 書 冊 数	292,101 冊	286,529 冊	288,689 冊
図 書 購 入 冊 数	3,517 冊	2,700 冊	2,315 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	4,506 冊	3,439 冊	2,984 冊
視聴覚資料年間受入数	126 件（66 タイトル）	148 件（78 タイトル）	92 件（61 タイトル）
雑 誌 所 蔵 種 数	2,930 種	2,930 冊	2,930 冊
雑 誌 年 間 受 入 種 数	219 種	219 種	219 種

注) 平成 29 年度は須磨キャンパス図書館およびポートアイランドキャンパス図書館（大学）の合算値
平成 30 年度・令和元年度は須磨キャンパス図書館の数値

注) 除籍図書：平成 29 年度（653 冊）、平成 30 年度（9,011 冊）、令和元年度（824 冊）

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

【ポートアイランドキャンパス】

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度		令和元年度	
蔵 書 冊 数	114,429 冊	(短大)	117,538 冊	(短大)	120,085 冊
		(大学)	15,215 冊	(大学)	16,244 冊
図 書 購 入 冊 数	2,823 冊	(短大)	3,083 冊	(短大)	2,498 冊
		(大学)	1,504 冊	(大学)	1,029 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	3,119 冊	(短大)	3,114 冊	(短大)	2,547 冊
		(大学)	1,504 冊	(大学)	1,029 冊
視 聴 覚 資 料 年 間 受 入 数	64 件 (45 タイトル)	(短大)	174 件 (65 タイトル)	(短大)	153 件 (65 タイトル)
		(大学)	12 件 (7 タイトル)	(大学)	24 件 (24 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	347 種	(短大)	378 種	(短大)	379 種
		(大学)	69 種	(大学)	80 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	205 種	(短大)	193 種	(短大)	185 種
		(大学)	57 種	(大学)	65 種

注) 平成 29 年度は神戸女子短期大学のみの数値

注) 除籍図書：令和元年度（0 冊）＊財務の除籍処理無し

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

ウ 地域開放利用状況

【須磨キャンパス】

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利 用 者 数	93 名	38 名	32 名
貸 出 冊 数	29 冊	21 冊	19 冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

(6) 研究

① 研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

② 科学研究費助成事業の採択

大学においては、応募件数 54 件、新規採択件数 11 件、新規採択率は 20%であった。継続分と併せた採択件数は 40 件（41,340 千円）となり、大学専任教員（助手を除く 164 名）に対する採択率は 24%であった。今後も応募件数や採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催、採択者の応募書類の公開など支援の一層の強化を図る。

短期大学においては、科研費申請の増加、研究の活性化を目的に、採択に向けて啓蒙活動を活発に実施し、基盤研究 C 3 件を申請したが、新規採択はなく、継続分の 1 件のみとなった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

③ 産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進した。

【科学研究費助成事業採択状況（大学）】

（単位：千円）

研究種目	平成 30 年度				令和元年度			
	件数	直接経費	間接経費	合計	件数	直接経費	間接経費	合計
基盤研究 (B)	1	2,200	660	2,860	1	1,700	510	2,210
基盤研究 (C)	29	24,500	7,350	31,850	30	25,000	7,500	32,500
挑戦的萌芽研究	2	1,300	390	1,690	0	0	0	0
若手研究	3	2,000	600	2,600	9	5,100	1,530	6,630
研究活動スタート支援	1	900	270	1,170	0	0	0	0
合計	36	30,900	9,270	40,170	40	31,800	9,540	41,340

【企業等との共同研究や受託研究等の状況（大学）】

年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
共同研究・受託研究（継続含む）	10 件	11 件	7 件
商品化・サービスの開始など事業化への貢献	6 件	6 件	0 件
技術相談受け入れ件数	0 件	1 件	1 件
特許の申請状況	0 件	0 件	1 件

【商品開発等（大学）】

	企 業 名	内 容
1	(株) ハイジ	スイーツの共同開発
2	日本製麻 (株)	パスタソースの共同開発
3	NPO 法人ひと・コネクト兵庫	オリジナルレシピの提案、レシピ本の製作など
4	コープこうべ第3地区活動本部	レシピの開発
5	(株) 神明きっちゃん	レシピの開発
6	ウオクニ (株)	社員食堂のメニュー開発
7	企業交流リレーマツ inKobe 実行委員会	弁当メニューの開発
8	昭栄堂製菓 (株)	健康洋菓子共同開発

④ その他外部資金の採択状況

【大学】

	交付元	研究課題名
1	平成 31 年度研究助成 (公益財団法人日本豆類協会)	「調理・加工条件の異なる豆類の摂取が食後血糖上昇に及ぼす影響」
2	平成 31 年度研究助成 (公益財団法人伊藤記念財団)	「神経細胞保護効果を有する畜産物由来タンパク質の探索研究」

【短大】

	交付元	研究課題名
1	平成 31 年度助成事業「生駒温子」児童福祉事業助成 (神戸市社会福祉協議会)	こここママさんサークルの立ち上げ事業 ー＜保育学生ー子どもー母親＞の交流を通じた育ち合い支援事業ー
2	令和元年度年度笹川日仏財団助成金 (笹川日仏財団)	社会的養育における親子支援のあり方についての 日仏比較研究ー2

(7) 古典芸能研究センター

① 能狂言絵コレクションの開催

国立能楽堂における初の大学所蔵コレクションによる特別展として、令和元年度国立能楽堂特別展 神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵「能狂言絵コレクション」が開催され、能狂言絵に関するセンター所蔵資料7点と図書館所蔵資料5点を学外で初公開した。また、センター展示室では、番組と番付、沖縄のまつり、文楽の床本など、各分野に関する所蔵資料を積極的に用いた展示を行い、新聞紙上でも紹介され、多くの見学者を迎えた。

② 研究資料集の公刊

学内外の貴重資料を紹介する「神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集」の第3冊目として、『新作浄るり めをと山賊—^{やまだる}食満南北遺稿集—』を公刊し、近代の上方を代表する戯作者 食満南北の未発表原稿を中心に、軸や床本など、貴重な資料を紹介した。

(8) 学生

令和2年度から実施される修学支援新制度の在学採用手続および次年度事務処理の準備を行った。

障がい学生支援に関する規程およびガイドライン等を整備し、全学的な方針及び基準の統一を図るとともに、支援体制の構築を行った。

① 奨学金の採択状況

【日本学生支援機構奨学金】 採用種別奨学生（新規採用）数の状況

(大学)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	学校教育学専攻科	合計	利用者の割合	学生数 R1.5.1
貸与 第一種（無利子）	202	206	206	175	8	/	797	21.59%	3,692
貸与 第二種（有利子）※	236	247	254	181	0		918	24.86%	
給付奨学金	25	29	4				58	1.57%	
合計	463	482	464	356	8	0	1,773	48.02%	

(短大)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	合計	貸与者の割合	学生数 R1.5.1
貸与 第一種（無利子）	58	64	122	22.68%	538
貸与 第二種（有利子）※	80	65	145	26.95%	
給付奨学金	12	6	18	3.35%	
合計	150	135	285	52.97%	

※第二種には、入学時特別増額貸与（一時金貸与者）を含む

【行吉学園奨学制度】

(単位：名)

区分		奨励金授与	授業料等免除	大学院奨学金
大 学	1 年 次	—	0	—
	2 年 次	28	2	—
	3 年 次	28	2	—
	4 年 次	28	0	—
大学院	修士・博士前期	—	—	24
	博士後期	—	—	6
小 計		84	4	30
短 大	1 年 次	—	2	—
	2 年 次	20	0	—
小 計		20	2	—
合 計		104	6	30

※奨励金授与制度：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。奨励金として10万円が授与

※授業料等免除制度：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料、教育施設充実費の半額を免除

※大学院奨学金：(博士前期課程) 授業料の半額給付、(博士後期課程) 授業料全額給付

【大学・短大関連団体の奨学金】

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付(年額)	200,000円	3年次	3名
2	青山会(大学同窓会)		500,000円	4年次	2名
3	かなめ会(短期大学同窓会)		授業料等の半額	該当なし	

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額は、給付者の在籍学科により給付額が異なる。

② 学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく令和元年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者(学部生)	10名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	4名	3団体
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	1名	—
4	公的機関から表彰された者	2名	2団体
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	9名	4団体

【短大】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	—	1団体
3	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	5名	—

③ 学生寮等の利用状況

【寮利用状況】

区分	年度	定員	入寮者	残数	入居率
行幸寮	令和元年度	108	106	2	98.1%
	平成30年度	108	101	7	93.5%
	平成29年度	108	72	36	66.7%
天神寮	令和元年度	70	59	11	84.3%
	平成30年度	70	68	2	97.1%
	平成29年度	70	57	13	81.4%
計	令和元年度	178	165	13	92.7%
	平成30年度	178	169	9	94.9%
	平成29年度	178	129	49	72.5%

(9) 保健室

働き方改革関連法の施行に伴い、教職員の労働時間の把握及び産業医による面接・ストレスチェックの集団分析等による健康管理機能を充実した。

新型コロナウイルスの感染予防啓発、海外留学からの帰国者の健康確認等の保健指導を実施した。

厚生労働省の風しん予防対策に対応し、健康診断時に制度に該当する教職員に抗体検査の機会を提供した。

【保健室の利用状況（教職員除く）】

(単位:件)

	平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
学生利用	1,564	1,012	661	1,563	1,081	518	1,321	1,094	424
	2,576			2,644			2,415		
学校医による健康相談			21			38			39
嘱託医による精神保健相談			20			31			23

【学生相談室の利用状況】

(単位:名/実数)

	平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数	31	7	6	39	16	2	35	15	8
	38			55			50		
相談内容別実人数	学業	1	0	1	0	4	0		
	進路	4	1	3	0	1	1		
	心理	33	5	50	2	43	7		
	生活	0	0	1	0	2	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		

(10) 教職支援

① 大学

大学では、令和元年度に教職指導専門職員を1名配置したことにより、個人面接、集団面接、模擬授業、場面指導、体育実技等について自治体別の指導を行った。

令和元年度の教育学科の卒業生は昨年度より約30名少なかったが、指導体制が強化されたこともあり、合格率が上昇し合格者数は微減にとどまった。また、中学校合格者が増加するとともに、三年ぶりに高等学校合格者を出すことができた。

【大学 公立学校教員採用試験の合格者数（新規卒業者）】（単位：名 *合格者数は延べ数）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
幼稚園・保育所等	31	26	39	41	32
小学校	57	39	58	59	55
中学校	7	4	3	4	9
高等学校	2	3			2
特別支援学校					
栄養教諭	4		1	5	
教員計	101	72	101	109	98

【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
幼稚園教諭	23	2	12	3	8	0	14	3	12	1
小学校教諭	43	15	32	18	43	16	41	13	34	14
中学校教諭	5	6	4	7	3	4	3	10	7	5
高等学校教諭	2	2	3	7	1	5	0	6	2	3
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
栄養教諭	3	0	0	0	1	2	3	1	0	4
養護教諭	—	—	—	—	—	—	0	1	0	0
教員計	76	25	51	35	56	27	61	35	55	27
保育士	52	1	45	3	54	2	58	1	45	3

*「保育士」就職者に「こども園」就職者も含む。 *令和元年度の臨時は3月31日現在

② 短大

短大では、幼児教育学科2年生全員と個別面談を行い、公立幼保就職促進及び就職支援強化を図った。

幼児教育学科のカレッジアワー等を活用し、教職ガイダンスを実施した。令和元年度須磨キャンパスに配置された教職指導専門職員とP I教職支援センターの教職アドバイザーが協働し、教採対策の充実を図った。公立幼保採用試験の1次合格は9名、最終合格は正規3名、臨時職員任用2名であった。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	正規	正規	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中 学 校	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
公立保育所	3	0	2	1	1	1	3	2	2	0
私立保育所	41	3	47	3	29	0	27	0	9	1
公立幼稚園	3	1	1	1	0	1	0	1	0	1
私立幼稚園	12	0	14	0	3	1	5	0	9	0
公立こども園	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1
私立こども園	19	3	32	1	45	0	47	0	45	0
施 設	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0
児童館、学童	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
計	80	7	98	9	78	4	84	4	68	3

(11) 就職支援

① 大学

大学の令和2年6月19日現在の就職率は98.8%、進路決定率は94.1%である。昨年最終時点での進路決定率に比べて0.3%低下しているが、高い決定率となっている。

岡山県、徳島県とUターン協定を締結し、合計で9府県と協定を締結した。

地方企業との関係強化に注力するとともに、学内でUターン希望者説明会を開催した。

② 短大

短大の令和2年6月19日現在の就職率は99.6%、進路決定率も99.6%である。昨年最終時点での進路決定率に比べて0.7%上昇し、高いレベルを維持できた。

学内企業説明会招致企業を再選定し、上場企業が増加した。

就職試験対策講座（SPI、公務員）の開講時期、内容を検証し更新した。

(12) 入試広報

① 高校訪問の強化

地域ごとの入試、志願者動向を分析し、重点強化地域、高校訪問強化地域等の検討を行い、広報展開した。また、大阪・兵庫に関して、入試の実績、高校ランク、エリアに応じて、親密な関係の構築に努めた。

② 高大接続改革への対応

高大接続改革に対応した入試制度について、選考方法、入試日程、入学前教育などの検討を完了しており、ホームページ、高校媒体を通じて広報していく。

令和2年度入学試験の結果について

(上段: 令和2年度・下段: 令和元年度)

学 科	全 入 試 状 況											
	募集人員	志願者数	前年比	受験者数	前年比	合格者数	前年比	合格倍率	手続者数	辞退者数	入学者数	定員充足率
			(%)		(%)		(%)					(%)
日 文	60	446	63.4%	441	63.2%	154	89.0%	2.9	67	21	46	76.7%
	60	703		698		173		4.0	76	10	66	110.0%
英 米	60	407	55.5%	407	55.8%	141	81.0%	2.9	67	9	58	96.7%
	60	733		730		174		4.2	70		61	101.7%
国 際	40	405	62.4%	403	62.4%	113	75.8%	3.6	48	4	44	110.0%
	40	649		646		149		4.3	59	7	52	130.0%
史 学	60	465	88.6%	464	89.6%	158	81.0%	2.9	72	20	52	86.7%
	60	525		518		195		2.7	83	14	69	115.0%
教 育	165	992	82.7%	986	82.2%	323	83.7%	3.1	188	33	155	93.9%
	165	1,200		1,199		386		3.1	215	39	176	106.7%
家 政	80	544	103.4%	542	103.6%	188	76.1%	2.9	101	16	85	106.3%
	80	526		523		247		2.1	105	8	97	121.3%
管 栄	150	1,008	68.1%	1,002	67.8%	277	79.6%	3.6	155	27	128	85.3%
	150	1,481		1,477		348		4.2	165	35	130	86.7%
福 祉	80	377	105.9%	377	106.2%	164	92.7%	2.3	73	11	62	77.5%
	80	356		355		177		2.0	80	4	76	95.0%
栄 養	80	420	72.4%	418	72.3%	130	71.4%	3.2	77	10	67	83.8%
	80	580		578		182		3.2	95	11	84	105.0%
看 護	90	1,412	97.0%	1,398	96.1%	230	101.3%	6.1	119	31	88	97.8%
	90	1,456		1,454		227		6.4	112	25	87	96.7%
大学合計	865	6,476	78.9%	6,438	78.7%	1,878	83.2%	3.4	967	182	785	90.8%
	865	8,209		8,178		2,258		3.6	1,060	162	898	103.8%
(前年との差異)		-1,733		-1,740		-380			-93	20	-113	
総 生	120	250	92.3%	245	90.4%	166	87.8%	1.5	114	6	108	90.0%
	120	271		271		189		1.4	101	3	98	81.7%
食 栄	120	174	70.7%	174	70.7%	99	58.9%	1.8	67	2	65	54.2%
	120	246		246		168		1.5	92	3	89	74.2%
幼 教	100	134	74.9%	134	76.1%	94	77.0%	1.4	68	0	68	68.0%
	100	179		176		122		1.4	80	0	80	80.0%
短大合計	340	558	80.2%	553	79.8%	359	74.9%	1.5	249	8	241	70.9%
	340	696		693		479		1.4	273	6	267	78.5%
(前年との差異)		-138		-140		-120			-24	2	-26	
総合計	1,205	7,034	79.0%	6,991	78.8%	2,237	81.7%	3.1	1,216	190	1,026	85.1%
	1,205	8,905		8,871		2,737		3.2	1,333	168	1,165	96.7%
(前年との差異)		-1,871		-1,880		-500			-117	22	-139	

・上記志願者数等の人数には第二志望を含む。

入 学 学 生 数

設 置	種 別	入 学 者 数 等			
		令和元年度	令和2年度		昨 年 比
		入学者	合格者数	入学者数	入学者
大 学	学 部	898	1,878	785	87.4%
	専攻科	2	0	0	0.0%
	大学院	18	19	18	100.0%
	大学院	6	4	4	66.7%
	編 入	10	9	9	90.0%
	編 入	7	5	3	42.9%
	計	941	1,915	819	87.0%
短 大	計	267	359	241	90.3%
合 計		1,208	2,274	1,060	87.7%

(13) 収益的事業

① オープンカレッジ

ミドル・シニア世代を対象としたアカデミックな講座や現代社会においてニーズのある講座を開講し、受講者数年間延べ 3,133 名、収益は 6,419 千円（前年比 220 千円減）となった。

② 貸室（教室・体育館等）

試験会場、神戸太極拳協会、各学会・研修会等多数の利用があり、総収入は 4,892 千円（前年比 1,275 千円増）となった。

③ 卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（食堂業者が設置するものを除く）の管理、自動車教習所の紹介等の収入があった。ただし、卒業式用の貸衣裳紹介手数料については、学位記授与式及び卒業祝賀会の中止によりゼロとなった。

(14) 幼稚園

① 在園者数

（令和元年 5 月 1 日現在）

区分	クラス	在園児	入園児	合計	
園児数	2歳児	—	7名	8名	
	満3歳児		1名		
	3歳児	2	11名	31名	42名
	4歳児	2	48名	6名	54名
	5歳児	2	43名	0名	43名
合計	7	102名	45名	147名	

② 子育て支援

ア 2歳児クラスの保育内容及び環境の充実を図る。

イ にこにこクラブ（兵庫県補助対象事業）

未就園児の親子を対象として、毎週月・火・金曜日に実施しており、77回実施した。

（火曜日は教育実習の一環）

i 幼稚園の生活に向けて、安定した母子分離を図る。

ii 幼児、保護者の交流を深め、情報交換の場とする。

ウ わくわく幼稚園（兵庫県補助対象事業）

在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、在園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施した。

実施回数 9回

参加人数 親子平均7組

エ みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）

未就園児が幼稚園教育を体験し交流を深め、安定した家族関係をつくることを目的として実施した。

未就園児親子登園日（77回）	園庭・園舎開放（28回）
教育相談（31回）	母親教室（4回）

オ 園庭開放

第1・第3水曜日（14:00～16:00）、地域の親子を対象に園庭を開放している。

カ 預かり保育

ほぼ毎日、保育終了後から19:00まで実施している。

延べ利用日数229日	延べ利用人数3,856名(昨年度比1.2倍)
------------	------------------------

③ 地域との関わり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身に付けている。

ア シルバーカレッジの昔あそび研究会との交流

イ 高倉台ふるさとまつりへの参加

ウ 高倉台一人暮らしの方とのクリスマス会への参加

エ トライやるウィークの中学生受け入れ

オ 小・中学校との交流・連携

④ 施設の充実

ア 砂場の枠の改修と砂の入替

イ 北側ブロック塀改修

ウ 職員室及び給食室の屋上防水改修

エ 禽舎及び園舎東側倉庫撤去

オ 2歳用階段手すり設置

カ 保育室エアコン4台更新

キ 体育倉庫設置

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
固定資産	30,156,500	29,134,091	27,646,948	27,287,000	27,661,009
流動資産	6,318,299	6,902,883	8,378,966	8,327,132	7,906,726
資産の部合計	36,474,799	36,036,974	36,025,914	35,614,132	35,567,735
固定負債	1,349,167	1,393,240	1,430,761	1,482,695	1,472,268
流動負債	1,215,970	1,280,818	1,368,203	1,270,319	1,132,531
負債の部合計	2,565,137	2,674,058	2,798,964	2,753,014	2,604,799
基本金	44,681,623	44,883,449	45,022,148	45,096,146	45,296,563
繰越収支差額	△ 10,771,961	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627
純資産の部合計	33,909,662	33,362,916	33,226,950	32,861,118	32,962,936
負債及び純資産の部合計	36,474,799	36,036,974	36,025,914	35,614,132	35,567,735

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
運用資産余裕比率	155.7%	155.4%	165.0%	164.0%	171.7%
流動比率	519.6%	538.9%	612.4%	655.5%	698.1%
総負債比率	7.0%	7.4%	7.8%	7.7%	7.3%
前受金保有率	566.7%	586.3%	684.3%	733.9%	801.2%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率	50.8%	49.5%	50.1%	49.6%	50.0%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学生生徒等納付金収入	4,791,959	4,708,884	4,897,923	5,242,549	5,371,462
手数料収入	122,800	121,068	135,319	127,834	108,832
寄付金収入	12,565	12,065	15,450	10,716	9,749
補助金収入	566,312	548,800	546,697	386,769	495,851
資産売却収入	4,537,638	800,000	900,000	623,707	420
付随事業・収益事業収入	109,174	95,127	89,412	108,663	109,932
受取利息・配当金収入	39,776	9,042	5,862	4,782	6,667
雑収入	203,149	185,535	304,185	118,650	324,268
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,077,471	1,149,910	1,190,028	1,106,701	956,999
その他の収入	1,871,772	1,707,450	1,787,196	1,936,277	1,770,868
資金収入調整勘定	△ 1,399,014	△ 1,196,891	△ 1,352,202	△ 1,371,182	△ 1,324,926
前年度繰越支払資金	2,949,838	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,577
収入の部合計	14,883,440	14,246,888	15,262,127	16,574,195	15,951,699

支出の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費支出	3,585,445	3,629,762	3,771,982	3,865,071	3,948,984
教育研究経費支出	1,170,149	1,166,485	1,074,886	1,177,881	1,161,089
管理経費支出	671,304	654,931	511,941	525,492	484,399
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	106,294	124,858	57,941	124,701	59,650
設備関係支出	182,934	83,076	87,820	118,084	155,062
資産運用支出	1,800,000	601,614	301,614	1,201,614	1,201,614
その他の支出	1,400,044	1,384,669	1,455,305	1,571,107	1,399,629
資金支出調整勘定	△ 138,628	△ 140,764	△ 142,878	△ 131,332	△ 126,647
翌年度繰越支払資金	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,577	7,667,919
支出の部合計	14,883,440	14,246,888	15,262,127	16,574,195	15,951,699

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,242,549	5,671,479	5,988,987	6,130,394	6,419,908
教育活動資金支出計	5,426,899	5,451,178	5,358,808	5,568,445	5,594,472
差引	352,462	220,301	630,179	561,950	825,437
調整勘定等	△ 88,275	86,077	△ 22,303	△ 53,510	△ 178,881
教育活動資金収支差額	264,187	306,378	607,876	508,440	646,556
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	326,599	300,000	300,000	323,707	300,606
施設整備等活動資金支出計	589,228	507,933	445,761	542,785	514,712
差引	△ 262,629	△ 207,933	△ 145,761	△ 219,078	△ 214,106
調整勘定等	86,545	30,757	△ 71	△ 3,421	0
施設整備等活動資金収支差額	△ 176,084	△ 177,176	△ 145,832	△ 222,499	△ 214,106
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	88,103	129,202	462,044	285,941	432,450
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	5,806,548	2,055,514	2,273,638	2,038,767	1,296,381
その他の活動資金支出計	2,738,587	1,548,360	1,334,421	2,346,648	2,182,487
差引	3,067,961	507,154	939,216	△ 307,881	△ 886,106
調整勘定等	△ 4	4	0	0	0
その他の活動資金収支差額	3,067,957	507,158	939,216	△ 307,881	△ 886,106
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	3,156,060	636,360	1,401,259	△ 21,940	△ 453,657
前年度繰越支払資金	2,949,838	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,576
翌年度繰越支払資金	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,576	7,667,919

ウ) 財務比率の経年比較

比率	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動資金収支差額比率	5.0%	5.4%	10.1%	8.3%	10.1%

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	4,791,959	4,708,884	4,897,923	5,242,549	5,371,462
	手数料	122,800	121,068	135,319	127,833	108,832
	寄付金	12,565	12,065	15,450	10,716	9,960
	経常費等補助金	539,713	548,800	546,697	386,769	495,665
	付随事業収入	109,174	95,127	89,412	108,663	109,932
	雑収入	203,150	185,535	315,118	253,863	324,647
	教育活動収入計	5,779,361	5,671,479	5,999,919	6,130,393	6,420,498
	事業活動支出の部					
	人件費	3,555,847	3,673,835	3,820,435	3,917,006	3,938,936
	教育研究経費	1,828,516	1,834,636	1,744,880	1,850,366	1,835,522
	管理経費	734,370	717,665	573,603	590,387	548,085
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	6,118,733	6,226,136	6,138,918	6,357,759	6,322,543
教育活動収支差額	△ 339,372	△ 554,657	△ 138,999	△ 227,366	97,955	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	39,776	9,042	5,862	4,782	6,667
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	39,776	9,042	5,862	4,782	6,667
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	39,776	9,042	5,862	4,782	6,667
	経常収支差額	△ 299,596	△ 545,615	△ 133,137	△ 222,584	104,622
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	37,638	0	0	0	0
	その他の特別収入	0	868	1,350	3,908	1,733
	特別収入計	0	868	1,350	3,908	1,733
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,178	1,999	4,179	147,156	4,538
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	2,178	1,999	4,179	147,156	4,538
特別収支差額	62,659	△ 1,131	△ 2,829	△ 143,248	△ 2,805	
基本金組入前当年度収支差額	△ 236,937	△ 546,746	△ 135,966	△ 365,832	101,817	
基本金組入額合計	△ 290,911	△ 201,826	△ 138,699	△ 73,999	△ 200,417	
当年度収支差額	△ 527,848	△ 748,572	△ 274,665	△ 439,831	△ 98,600	
前年度繰越収支差額	△ 10,244,114	△ 10,771,961	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,028	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 10,771,962	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,029	△ 12,333,628	
(参考)						
事業活動収入計	5,883,974	5,681,389	6,007,131	6,139,083	6,428,898	
事業活動支出計	6,120,911	6,228,135	6,143,097	6,504,915	6,327,081	

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費比率	61.1%	64.7%	63.6%	63.8%	61.3%
教育研究経費比率	31.4%	32.3%	29.1%	30.2%	28.6%
管理経費比率	12.6%	12.6%	9.6%	9.6%	8.5%
事業活動収支差額比率	△4.0%	△9.6%	△2.3%	△6.0%	1.6%
学生生徒等納付金比率	82.3%	82.9%	81.6%	85.5%	83.6%
経常収支差額比率	△5.1%	△9.6%	△2.2%	△3.6%	1.6%

2 その他

(1) 有価証券の状況

種 類	当年度 (令和2年3月31日)		
	貸借対照計上額	時価	差額
債 券	400,000,000	395,819,000	△ 4,181,000
株 式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	—	—	—
そ の 他	—	—	—
合 計	400,000,000	395,819,000	△ 4,181,000
時価のない有価証券	1,437,600		
有価証券合計	401,437,600		

(2) 借入金の状況 該当なし

(3) 学校債の状況 該当なし

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
寄付金収入	12,565	12,065	15,450	10,716	9,749
特別寄付金収入	6,348	6,365	9,700	6,558	6,769
教育研究特別寄付金収入	3,548	2,265	2,000	2,858	2,279
施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
奨学研究助成金収入	2,800	4,100	3,200	500	600
公募研究助成金収入	0	0	4,500	3,200	3,890
一般寄付金収入	6,217	5,700	5,750	4,158	2,980
一般寄付金収入 (保証人)	4,410	4,820	4,260	3,140	1,900
個人寄付金収入 (その他)	1,492	580	1,070	610	730
法人寄付金収入 (その他)	315	300	420	408	350

(5) 補助金の状況

(単位：千円)

科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
補助金収入	566,313	548,800	546,697	386,769	495,851
国庫補助金収入	512,865	496,418	497,879	335,836	440,851
国庫補助金収入(教)	486,266	496,418	497,879	335,836	440,851
国庫補助金収入(施)	26,599	0	0	0	0
地方公共団体補助金収入	52,847	52,382	48,518	50,932	54,001
地公体補助金収入(教)	52,847	52,382	48,518	50,932	53,815
地公体補助金収入(施)	0	0	0	0	186
学術研究振興資金収入	600	0	300	0	1,000

(6) 収益事業の状況 該当なし

(7) 関連当事者との取引の状況

- ア) 関連当事者 該当なし
- イ) 出資会社 該当なし

(8) 学校法人間財務取引 該当なし

3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和元(平成31)年度における事業活動収入は、前年を上回る学生数(+60名)により学生生徒等納付金が「129百万円」増加し、また、前年度減額(文学部定員1.3倍超過)の回復による経常費等補助金「109百万円」の増加等により、前年比「290百万円」の増額となった。

事業活動支出は、執行内容の見直しにより管理経費が前年比「△43百万円」となり、また、金額の大きな資産処分差額も発生しないことから(前年度、須磨キャンパス砂防土地売却に伴う不動産処分差額「124百万円」あり)、前年比「178百万円」の減少となった。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は「102百万円」となり、前年比「+468百万円」の黒字基調となった。基本金組入額は「△200百万円」、これにより当年度収支差額は「△98百万円」の支出超過となったが、前年比では「+342百万円」と大幅に改善した。

令和2年度の学生募集は、大学において前年比「△113名」、短期大学は入学定員「340名」に対して入学者数「241名」となり、学生数(大学短大)は前年比「△80名」となった。また、「新型コロナウイルス感染症に係る経済的支援」として新たに「250百万円」の枠を設け、「全学生向け一律の支援奨学金 50,000円」の給付、「経済的困窮者に対する授業料等の減免」を行うことから、令和2年度はより厳しい財務状況を迎えることが想定される。

今後においては、引き続き執行内容の見直し等による経費の節減に努めるとともに、定員充足による学生数の回復がいち早く望まれる。



「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp>

Tel :078-303-4712

Fax:078-303-4713